

き さ み おお はま と う じ
吉佐美大浜周辺及び田牛

ジオサイトを中心とした自然景観と
漁村集落の景観を活かしたまちづくり



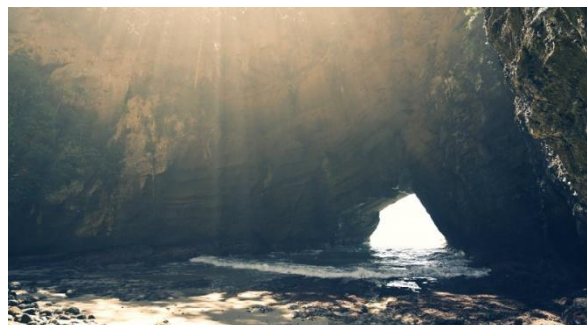
①住民も来訪者も心地よい自然景観



②漁村集落ならではの文化を体験



③港特有の歴史を未来に伝える



所在地	静岡県下田市吉佐美及び田牛
面積	約304.7ha
施設	吉佐美:ボードウォーク、つり橋、吉佐美大浜海水浴場(夏期) 田牛:サンドスキー場、青少年海の家、タライ岬遊歩道、田牛海水浴場(夏期)
アクセス	伊豆急下田駅からバス15分 徒歩1時間

自然

吉佐美大浜・田牛周辺は、大賀茂川ボードウォーク周辺のハマボウ樹林、白砂の広がる吉佐美大浜や岩浜の田牛海岸、海底火山の地層が波や風の浸食によって現われた龍宮窟など多種多様な海岸線にジオサイトが点在し、伊豆七島の眺望も楽しめる市内有数の自然景観エリアである。

観光

龍宮窟は近年ジオサイトに指定され、洞穴がハートのような形に見えることも話題となり年間を通じて観光交流客が増加している。また、吉佐美大浜、田牛海岸は夏期は海水浴場に指定されているほか、吉佐美大浜において毎年9月初旬にビッグシャワーという海の自然体験型イベントが開催、田牛では6～7月、市内外の小中学生が漁村宿泊体験（教育旅行）を行っている。

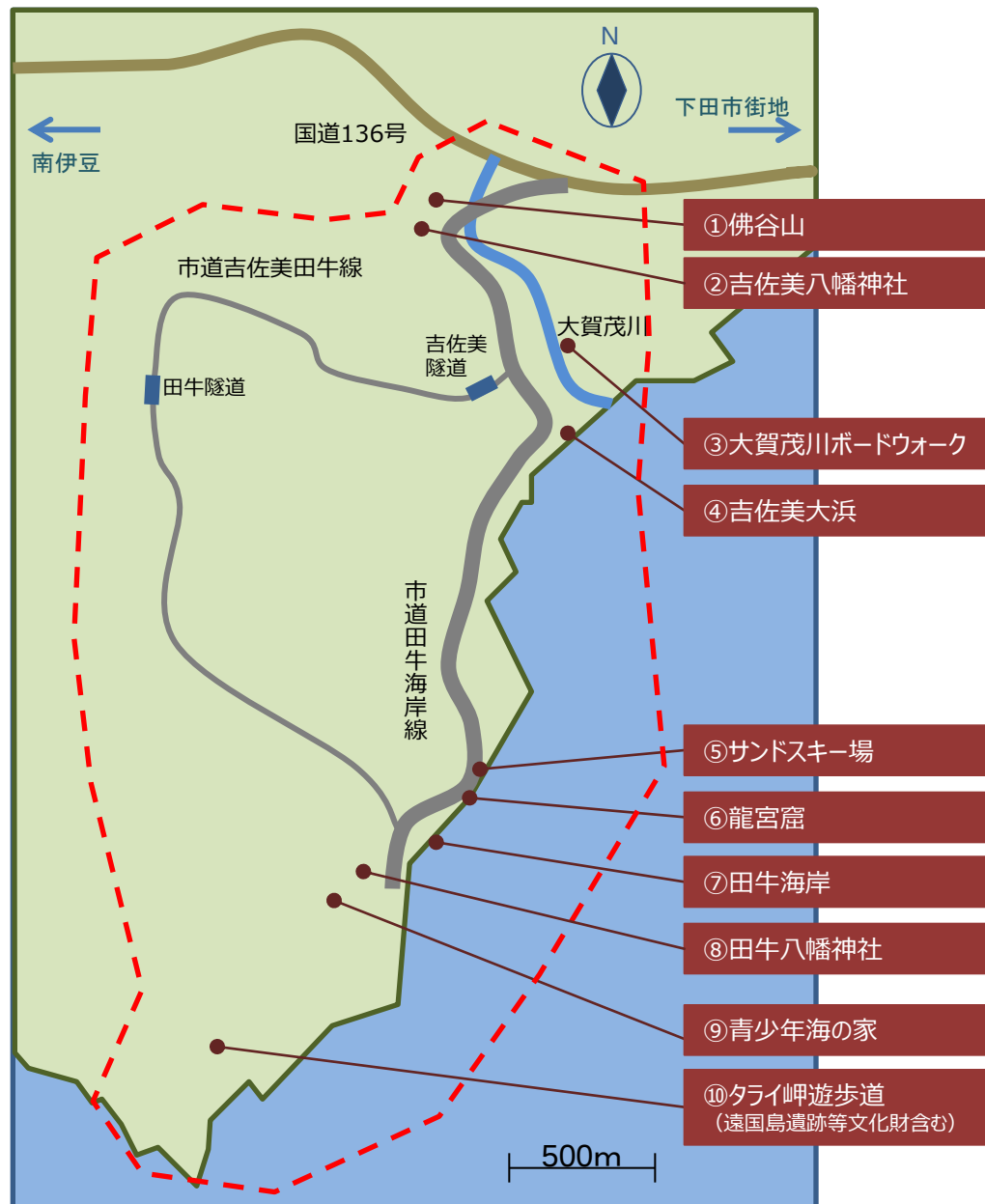
歴史

石器や土器、製鉄技術など様々な文化や技術が海を越えてもたらされ、遠国島遺跡、金草原遺跡等多くの文化財が点在し、吉佐美八幡神社や佛谷山等の信仰施設も含め、古来伊豆半島南部の中心地のひとつであったことが窺える。また、昭和30年代からのライフセービングやサーフィンなどのマリナクティビティが根付いており、現代におけるさまざまな自然景観利活用の原点となっている。

2. 対象エリアの位置図



2. エリア図



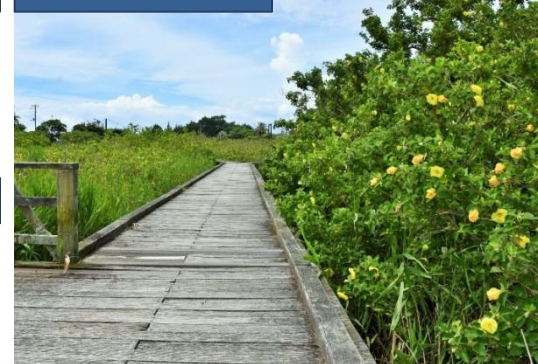
① 佛谷山



② 吉佐美八幡神社



③ 大賀茂川ボードウォーク



④ 吉佐美大浜



⑤ サンドスキー場



⑦ 田牛海岸



⑨ 青少年海の家



⑥ 龍宮窟



⑩ タライ岬遊歩道



①住民も来訪者も心地よい自然景観

(1) 自然



国道135号から市道吉佐美田牛線に入り、田牛海岸線まで至る沿道には海岸線を中心とした魅力あふれる自然景観が点在しています。ボードウォークやつり橋が整備された「大賀茂川ボードウォーク」には市天然記念物のハマボウが自生（群生の北限）するほか、ベンケイガニやアカテガニなど多くの種類のカニを間近に観察できます。そこから吉佐美大浜は歩いてすぐの場所にあります。抜群の透明度を誇り、白い砂浜が広がる海浜は観光客はもとより地元住民も年間を通じて様々なアクティビティを楽しめます。

トンネルをいくつか抜けると田牛地区に到着。サンドスキー場と龍宮窟は、海底火山活動の一端を垣間見ることのできる場所です。その先に続く田牛海岸はファミリー層を中心としてゆったり楽しめる海岸。田牛の集落を通り過ぎるとタライ岬遊歩道があり、海岸線の地形や遺跡、多くの海岸特有の植物が織りなす景観を楽しめるスポットとなっています。これら様々な場所からは伊豆七島や神子元島灯台、往来する貨物船などが特徴的な太平洋の景色を望むことができます。

このような自然景観を保全し、さらに良くしていくための環境や仕組みづくりが重要です。

(2) 観光



毎年7月から8月までの間、吉佐美大浜、田牛海岸は海水浴場として開設され、両浜合わせて約7～8万人の観光客が訪れます。そして、龍宮窟、サンドスキー場は近年ジオサイトとして注目され、ゴールデンウィークなどを中心に年間を通じて来訪者を楽しませています。

また、吉佐美大浜では毎年9月第1週の土日に「下田の夏はまだ終わらない」をコンセプトに「ビッグシャワー」というイベントを開催しています。ビーチヨガやノルディックウォーキング、シーカヤックなど海水浴とは一味違った海の景観を楽しむイベントとして市民にも観光客にも親しまれています。

このように四季を通じ、様々な目的で多くの年代や外国の方々が訪れるため、色彩やサイズ等適切な案内表示、海水浴場や龍宮窟周辺等の管理運営上の整備、清掃活動や花の植栽等、より快適な景観環境づくりをすることが必要です。

〈景観形成の主な課題〉

- ・樹木の管理（視点場を遮る場合も）
- ・案内板の乱立や不統一（外国語表記も）
- ・来訪者が各景観を楽しみつつ快適に過ごせる仕組みづくりが必要
- ・年間を通じた定期的な浜辺の清掃活動等の仕組み作りが必要

②漁村集落ならではの文化を体験

(1) 交流



毎年6月～7月、田牛地区では市内外から小中学生を受け入れる教育旅行を約20年に渡って行っています。民宿での宿泊体験や漁船体験、干物開きなど地域の風土がそのまま活かされています。民宿経営者の高齢化に伴い、後継者不足の面からも今後継続していくためには様々な対策が必要です。教育旅行の中心施設である青少年海の家は昭和初期に建てられた元小学校校舎ですが、耐震性や老朽化の面で様々な方策を模索する必要があります。

また、吉佐美大浜周辺ではサーフィン体験などのマリンスポーツが盛んで、ライフセーバーの活動も積極的に行われています。これらのアクティビティを楽しめる教室など市民や観光交流客により広く伝える仕組みづくりも求められます。

〈景観形成の主な課題〉

- ・民宿経営者の後継者不足 ・老朽化した建造物への対応
- ・漁村景観を実感できる自然体験メニューの種類を増やす

③港特有の歴史を未来に伝える

(1) 歴史



吉佐美大浜～田牛地区周辺は国道や市道が整備される以前は山によって遮られ、下田市の中心市街地とは距離がありました。しかし、海岸の形状など地形的要因により、古くから港として発展し、漁村文化が根付いています。古代の遺跡群や田牛八幡神社例大祭における獅子舞やおっぴいしやりなどの行事はこの地域特有の文化や歴史を現代に伝えていますが、近年は後継者等担い手不足の傾向にあります。

これら魅力あふれる港町の歴史を様々な媒体を通じて広報し、祭事などの伝統を継承していく手法を見つける必要があります。

〈景観形成の主な課題〉

- ・遺跡等の魅力を分かりやすく伝える方法（案内表示や冊子作成等）
- ・伝統ある祭事を未来に伝える後継者育成

ジオサイトを中心とした自然景観と漁村集落の景観を活かしたまちづくり

地域住民の視点

- ・水平線上に浮かぶ伊豆七島の眺望
- ・ロケ等にも適した自然景観
- ・サーフィン等マリンスポーツが盛ん
- ・若者や外国人の移住者が多い魅力ある土地
- ・教育旅行等民宿の生活そのものを活かした交流
- ・当該地区への導線が必要
- ・観光交流客が快適に過すための空間づくりの必要性

有識者の視点

- ・全体的に自然の魅力があふれている
- ・吉佐美～大賀茂川ボードウォーク周辺は木材が使用されていて雰囲気が良い
- ・住宅地周辺の細い道筋は魅力的な景観である可能性がある
- ・観光案内看板が乱立しているが集約が可能
- ・休憩用や展望用などベンチ一つにも意味を持たせるとよい

目標 1



住民も来訪者も心地よい
自然景観

景観づくり方針

- ① 景観対象としても眺望点としても楽しめる景観づくり
- ② のんびり長時間楽しんでいただける空間づくり

目標 2



漁村集落ならではの
文化を体験

景観づくり方針

- ① 地域住民の生活と体験活動とが調和したまちづくり

目標 3



港特有の歴史を未来に
伝える

景観づくり方針

- ① 情景に、より深みを持たせる歴史を伝える場づくり

目標 1 住民も来訪者も心地よい自然景観

方針 1 -① 景観対象としても眺望点としても楽しめる景観づくり

	取組み	実施主体
短期	①龍宮窟の樹木剪定・間伐による視点場の整備 【樹木等が眺望を妨げないように配慮する】	●市
	②龍宮窟、遊歩道の安全対策、龍宮窟前の法面整備 【法面・擁壁の構造及び形態は、できる限り周辺の景観と調和させる】	●市
	③色彩やサイズ、英語表記等統一した自然素材を使用した案内板の整備 や整理、統合 【屋外広告物やサインを設置する際には眺望を遮らない・周辺景観に違和感 を与えないよう注意する】	●市・地元
	④景観に配慮した港湾等の施設整備 【安全性や機能性を確保できる必要最小限の構造により、できる限りすっきり とした形態意匠とする】、【屋外広告物やサインを設置する際には眺望を遮ら ない・周辺景観に違和感を与えないよう注意する】	●市・県
	⑤景観資源の活用や発信方法の検討	●市・地元
中・長期	⑥田牛サンドスキー場の保全、維持管理方法の検討	●市
	⑦ベンチ等を設置し、新たな眺望点の整備	●市
	⑧大賀茂川ボードウォークの再整備	●市

目標 1 住民も来訪者も心地よい自然景観

方針 1 -② のんびり長時間楽しんでいただける空間づくり

	取組み	実施主体
短期	⑨周辺環境や景観に配慮したトイレや手洗い場、ベンチ等の整備 【周辺の景観資源の眺めが阻害されないように、建物や工作物等の配置、形状を工夫する】、【建物や工作物等、施工対象の色彩及びデザインは周囲の景観を引き立たせるために、それ自体が目立つものとなっていない】、【ベンチから見せるものを意識して、ベンチの配置や向きを計画する】	●市
	⑩海岸線だけではなく、市道沿いの様々な要素（夏季のホタル、レトロなトンネル等）を活用したモデルルートを作成（ジョギング等含む）	●市・地元
	⑪沿道に花苗を植栽 【樹木等が眺望を妨げないように配慮する】	●地元
	⑫沿道や砂浜の清掃活動	●市・地元
中・長期	⑬植物やジオを掲載した自然マップの制作	●市
	⑭外国人が楽しめる場や表記の整備等の検討	●市

目標 2 漁村集落ならではの文化を体験

方針2-① 地域住民の生活と体験活動とが調和したまちづくり

	取組み	実施主体
短期	⑮新たな自然体験メニューの検討 ⑯実際の漁村生活に触れてもらう環境づくりの検討	●市・地元・事業者 ●市・地元・事業者
中・長期	⑰既存の自然体験メニュー（漁船体験等）実施者の人材育成 ⑱体験施設の整備検討 ⑲長年の教育旅行受け入れ経験を活かした防災マニュアル・マップづくり ⑳青少年海の家を活用方法を検討 ㉑高齢者等への自然体験を実施 ㉒地元海産物を活かしたメニューづくり	●市・地元 ●市・地元 ●市・地元 ●市・地元 ●市・地元・事業者 ●市・地元・事業者

取組み

短期

- 市・地元
- 市

中・長期

- 市
- 市
- 市・地元

対象エリアの入口・アクセス部における景観形成

当該エリアの入口、あるいはアクセス道路となる箇所（区間）で実施する景観形成を以下に示します。

	取組み	実施主体
短期	⑳違反屋外広告物に対する是正措置 （国道136号 伊豆急下田駅～吉佐美周辺）	●市、県
中・長期		

7. 景観施策(案)のイメージ図

